

沖縄科学技術大学院大学（仮称）の整備促進 〈生活対策〉

1. 20年度2次補正予算額 4,258百万円

○沖縄科学技術研究基盤整備機構設備整備費補助金 170百万円

・DNAシーケンサー、レーザー顕微鏡

○沖縄科学技術研究基盤整備機構施設整備費補助金 4,088百万円

・第2研究棟（22年9月（実質学生受入開始）の供用開始に向けた早期着工）
・鋼材価格高騰への対応
・基幹・環境整備等

2. 概要

ノーベル賞を受賞するような世界最先端の研究開発を促進する観点から、大学院大学メインキャンパスの整備を加速する。これにより、世界一流の研究者による教育研究を早期に開始するとともに、大学院大学を中核とした人材育成や産学連携等による沖縄県内の産業創出を図っていくものである。

（参考）沖縄科学技術大学院大学構想は、沖縄の自立的発展と世界の科学技術の向上に資することを目指し、世界に開かれた、我が国の大学の在り方のモデルとなるような、世界最高水準の自然科学系の大学院大学を沖縄県恩納村に設立（24年度開学目途）しようとするものである。

【建物配置図】



【完成イメージ図：第1研究棟・管理棟及び第2研究棟】



ビレッジ側からラボゾーンを望む